

示板の整備等とあわせて改善を図って  
いきたい。

## 自由民主党

### 公民館の位置づけと機能

**問** 教育委員会が所管する公民館には、大型公民館と地区公民館があり、生涯学習の拠点として運営されている。現在の公民館の位置づけとその機能及び課題について、また、今後の公民館のあり方について伺いたい。



▲大型公民館（滑石公民館）



▲木鉢地区公民館

**答** 本市においては大型公民館9館、地区公民館23館が設置されている。大型公民館は広域的な講座の開催や地区公民館及びふれあいセンターの講座支援等を行っている。地区公民館は小中学校や自治会等と連携した講座の実施や、地域の図書サービスの拠点となる役割を担っている。課題としては老朽化が進んでいることや、ふれあいセンター等に比べると利用者が少ない状況

であることが挙げられる。今後、公民館のあり方や配置についてふれあいセンターなどの公民館類似施設も含め全体的な視野の中で、検討していきたい。

## 新風会

### MICE施設の検討と長崎サミットの関わり

**問** J R長崎駅西側の土地をMICE施設の候補地として検討すると表明したが、長崎サミットにおいて、その土地よりも魚市跡地が適当であるという意見は交わされなかったのか。また、このMICE事業は産学官一体となって推進しているが、実際は市主導に見え、経費も市負担となっている。経済界には何を担ってほしいのか。

**答** 長崎サミットの構成団体から選出された委員による「コンベンション施設設置アクションチーム」が、魚市跡地を含む6か所の候補地の中から、アクセスや周辺環境の利便性などを要件としてJ R長崎駅西側を選定した。この報告を受けた長崎サミットのメンバーも共通の認識を持っている。経済界には施設の運営やMICEの誘致、施設を活用した「地元を外貨を落とさせる仕組み」の構築に期待しており、MICEの開催を新たなビジネスチャ

ンスとして活用してほしいと考えている。

※MICEとは、ミーティング・インセンティブ・コンベンション・エキシビジョンの頭文字をとった造語で、企業の大いな会議だけでなく幅広く人が集まり交流するビジネスイベントをさす。

## 長崎市民会議

### 被災ガレキ処理に係る市民合意の手順と判断

**問** 被災ガレキの処理方針については、市民合意を得る手続きはどのような手順で行い、判断するのか。長崎市民の生命と財産を守るという観点からも、安全性の確保と市民の完全合意を最優先にして慎重に検討を重ねるべきではないのか。

**答** 被災ガレキの受け入れには、市民の理解が不可欠であるので、今後の検討の結果、安全性が確認されたのちに仮に受け入れるとした場合、地元への説明を十分に行うなど、市民の理解が得られるよう努めていきたい。また、北九州市が行ったような市民と専門家を交えた公開検討会や意見交換会の開催についても必要であると考えている。このような説明会等の手続きを十分に行ううえで判断をすることとなる。安全性の確保と市民の理解を条

件として、本市としての具体的な方針の検討を、慎重に進めていかなければならないと考えている。

## 気走会

### 長崎県立図書館の本市での存続・再整備

**問** 長崎県立図書館は本市が原爆の惨禍から立ち直るべく建設された、国際文化の向上と恒久的平和の象徴たる施設である。施設の本市での存続に向けた強い意志を示してほしい。

**答** 長崎県立図書館の再整備については、県において建設場所を含めた基本方針の策定に向け検討がなされている。本市としては、昨年3月に県立図書館再整備検討会議で建設地候補に長崎市、大村市が併記されて以降、長与町、時津町とともに要望を行うなど、本市での存続を強く働きかけてきた。市民や県民にとって有益な建設場所は本市であるとの思いを強く持ち、これからも本市存置に向けた取り組みを進めていきたい。



▲長崎県立図書館